

としょかんだより

真間小学校 2021年10月号

昼夜の寒暖差が大きくなり、さすがに秋の気配を感じられるようになりました。校庭の樹木の葉の色付きはまださほどではありませんが、次第に秋らしい姿に変わってくることでしょう。空気中の水蒸気も少しずつ減ってくるので、夜は星がよく見えるようになってきます。9日、10日の夕暮れには東の空に、細い月と金星、アンタレス(さそり座にある1等星・赤い星・全天21の1等星のうちの1つ)が並んで見えました。16日前後の夕暮れは金星とアンタレスが並んで見えます。18日は、旧暦の9月13日にあたり、名月「後の月」といわれる十三夜の月です。そして20日は満月です。すべて肉眼で見ることができるので、晴れていたらぜひ夜空を見上げてみてください。

10月は「神無月」という別名がありますが、水無月(6月)と同じく、「無」は「ない」という意味ではなく「の」の意味で「神の月」となります。庶民の間で神様に秋の収穫をささげたところからこの名がついたともいわれています。他には雷が鳴らない月なので「雷無月」、新しく取れた穀物で酒を醸す月なので「醸成月」が字を当てて神無月になったという説等があります。

この「神無月」に対して出雲地方(島根県)では10月を「神在月」といいます。10月は出雲大社に日本中の神様が集まるので、出雲に神様はいても出雲以外には神様がいない、という平安時代からの俗説によるもののようです。

10月の大きな祭りといえば龍踊で有名な長崎県の長崎くんち、松明の火の粉の中を2基の神輿が渡御する京都府の鞍馬の火祭、およそ2kmにも及ぶ神輿渡御の行列が見事な香川県の金刀比羅宮例大祭、勢子が鹿を追い神官がその角を切り落とす奈良県の鹿の角切などがあげられますが、今年は残念ながらすべて中止になってしまいました。そのうちの長崎くんちの「くんち」は「お九日」、つまり旧暦9月9日の重陽の節句の日(今年は10月14日)を意味しています。『ながさきくんち』という絵本が図書室にあります。「3年生で読みたい本」でもあるので、読んでみてください。

お知らせ

◎読書月間が11月15日(月)～12月10日(金)になりました。

昨年度にできなかった先生方の読み聞かせなどを加えて、図書委員会では皆さんにたくさん楽しんでもらってますます読書が好きになってくれるような催しを企画中です。緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ用心が必要な日常です。日々の状態に応じて計画が変更されることがあるので、決定した詳しい内容はもう少し間近になってからお知らせします。楽しみにお待ちください。

◎新しく買った本の中から今回はこの2冊を紹介합니다。

『メートルくんとキログラムくんと単位の仲間たち』
算数や理科で出てくる長さや重さ、時間や温度などの単位について、その成り立ちから使い方までたいそう詳しくわかりやすく書かれています。勉強で迷った人、もっと詳しく知りたい人には特に読んでほしい本です。とても楽しく読めますよ。(609う)

『ピーカーくんのゆかいな化学実験』
『ピーカーくんとそのなかまたち』『ピーカーくんと放課後の理科室』に続く第3弾。これらの本を読めば、実験道具とその取扱い方、いろいろな理科実験とその安全な実験方法がわかります。やってみたくなる実験があります。準備する物が多くて中には危険な薬品を使うものもあるので、しばらくは読むだけで満足しておきましょうか。(432う)

そして9月にもお願いしましたが、もう1度。

業間休みや昼休み、図書の時間に図書室で本を読んでいる人たちにお願ひがあります。本棚に本を戻すときは、必ずその本の分類の、あった場所へ、きちんと背表紙が見えるように、立てて、戻してください。もし本が倒れていた時は、倒れている本を直してから、立てて、戻してください。よろしくお願ひします。